

東京ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業環境安全委員会

第44回議事録

中間貯蔵・環境安全事業株式会社

第44回東京ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業環境安全委員会  
議事次第

日時：2021年4月5日（月）14:56～16:51

場所：東陽セントラル 2階 会議室

1. 開 会

2. 議 題

- （1）2020年度 下期の操業状況
- （2）2020年度 東京PCB処理事業所 長期処理計画（改訂版）
- （3）2020年度設備保全実施項目と長期保全計画に基づく2021年度設備保全予定項目
- （4）その他

3. 閉 会

●事務局 定刻前ではございますが、今、ウェブ参加者が全員入られたので、これで出席の委員の方々の皆さんはおそろいでございますので、第44回「東京ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業環境安全委員会」を開会させていただきます。

恐れ入りますが、着座にて進行させていただきます。よろしくお願いします。

本日、御来場のお客様にはマスクの着用をお願いしております。よろしくお願いいたします。  
御来場の出席者以外の方ですけれども、本委員会の中杉委員長、佐古委員、森口委員、環境省の切川課長補佐の4名の方につきましては、ウェブ会議システムにより出席していただいております。

なお、織委員につきましては、御欠席の連絡をいただいております。

また、環境省から関東地方環境事務所の橋爪課長補佐に御来場いただいております。よろしくお願いいたします。

それでは、ただいまより、ウェブ会議システムによる出席者の音声の確認をさせていただきます。

中杉委員長、聞こえますでしょうか。

○中杉委員長 聞こえます。

●事務局 よろしくお願ひいたします。

佐古委員、聞こえますでしょうか。では、後ほど。

森口委員、聞こえますでしょうか。

○森口委員 聞こえております。よろしくお願ひいたします。

●事務局 よろしくお願ひいたします。

環境省、切川課長補佐、聞こえておりますでしょうか。

○切川補佐 環境省切川です。聞こえております。

●事務局 よろしくお願ひします。

再度お知らせします。佐古委員、聞こえておりますでしょうか。

○佐古委員 佐古ですが聞こえています。

●事務局 よろしくお願ひいたします。

ウェブ会議システムにより出席の皆様にお願ひがござひます。音声は常にミュート状態にしておいていただきたひと思ひます。発言する際は、ミュートを解除いたしまして発言する旨お伝えいただき、中杉委員長の御指名により御発言をお願ひいたします。

次に、この会場に出席の皆様にお願ひがござひます。発言する際は、発言者の映像をスクリーンに映しますので挙手でお願ひいたします。係の者がマイクをお持ちいたしますので、中杉委員長の御指名により御発言ください。よろしくお願ひいたします。なお、発言する際には、説明者を含めまして着座にてお願ひいたします。

引き続きまして、新任の委員の方、並びにJESCOの新任者につきまして、前回の第43回環境安全委員会が書面開催であったために、お手元の議事次第の次の資料、委員会名簿を御覧いただきたひと思ひます。前回、御紹介できなかった新任の委員の方も含めまして、順次紹介してまいります。

委員会名簿は50音順になっております。この順番で紹介したひと思ひます。よろしくお願ひします。

東京都環境局資源循環推進部、産業廃棄物技術担当課長の浅沼委員です。

江東区議会議員、清掃港湾・臨海部対策特別委員会副委員長の板津委員です。

江東区議会議員、清掃港湾・臨海部対策特別委員会委員長の榎本委員でござひます。

江東区環境清掃部 清掃リサイクル課長の瀧澤委員でござひます。

江東区環境清掃部 環境保全課長の干泥委員でござひます。

次に、JESCO本社の新任者を御紹介いたします。

立川PCB処理事業部長 PCB処理事業全体調整でござひます。

秋口PCB処理事業部長 特命担当でござひます。

最後になりますが、事業所の新任者の紹介です。

柳原副所長です。

又木運転管理課長です。

どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、開催に当たりまして、まず、JESCOの小川取締役より御挨拶をさせていただきます。よろしくお願ひします。

●JESCO 一言御挨拶を申し上げます。

本日は、中杉委員長をはじめ委員の皆様方にはお忙しい中御出席を賜りまして、ありがとうございます。本日ウェブは併用しての会議ということで、御不便をおかけするところもあると思ひますけれども。どうぞよろしくお願ひいたします。

本環境安全委員会につきましても、コロナの影響を受けまして、前回このような形で行いまし

たのが、第42回を2019年11月に開催いたしまして、昨年、2020年の春は開催を見送らせていただきまして、43回、昨年の9月につきましては書面ということで開催をさせていただきましたので、実際にお集まりいただく会議としては、ほぼ1年半ぶりの会議になるところでございます。本日の委員会におきましては、主には前回の書面開催以降の状況について御報告をさせていただきたいと存じます。

前回の書面会議の直後でありますけれども、水熱設備の周辺からの蒸気漏れのトラブルが発生をいたしましたところでございます。幸いPCBの漏えいはございませんでしたので環境汚染という事態は生じなかったわけでございますけれども、原因究明、それから、点検・補修にかなり時間を要しまして、2か月ほど運転を停止したところでございます。現在は復旧いたしまして、順調に操業しておるところでございます。詳しくは会議の中で御報告をさせていただきたいと存じます。

それから、コロナの影響でございますけれども、当社は廃棄物処理ということで、継続的に操業する業種になっておりますので、コロナの対策は十分注意をいたしまして対処しているところでございます。このため、東京事業所を含めましてPCB処理を行っている5つの事業所とも、これまでコロナの発生の影響で処理が滞るということは幸いにして発生をしておりません。ただし、一部資材が手に入らないとか、あるいは出張が難しくなったということで点検ですとか、それから、工事の一部に多少遅れが出たということではございましたけれども、PCB廃棄物の処理そのものは影響を受けずに進めておるところでございます。引き続き十分コロナの発生予防・対策に心がけて進めてまいりたいと存じます。

次に今年度、令和3年度でございますけれども、今年度がこの東京事業所につきましては法律で定められました処分期間、ここまでにJESCOへの処理委託をしなければならない期間ですが、その最終年になるわけでございます。それから、来年度、令和4年度が計画的処理完了期限の最終年になるところでございます。このため、最終盤でございますので、今年度、それから、来年度につきましては、年度途中にいろいろ新しいものが発見されたりというようなこともあると思いますので、そういったものに柔軟に対応いたしまして、処理が滞りなく進むように注意をして進めてまいりたいと存じます。

委員の皆様方には、引き続き安全・安定な操業のために御指導をいただきたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

●事務局 それでは、以降の議事進行につきましては、中杉委員長にお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

○委員長 ウェブの参加でございまして申し訳ありません。

それでは、ウェブの形でやりますのでなかなか難しいところがあるかと思いますが、御協力のほど、よろしくお願いいたします。

では、早速でございますけれども、議事に入ります前に配付資料の確認を事務局にはお願いいたします。

●事務局 それでは、私のほうから説明申し上げます。お手元にお配りしております資料を御覧いただきたいと思います。

まず、一番上が議事次第、その裏側に本日の席次図がございます。続きまして、委員名簿、並びに裏側が環境省、JESCOの名簿になります。

次が資料でございます。資料1、2020年度下期の操業状況、ホチキス留めでございます。その次に、別紙1から別紙4まででございます。別紙1が二次廃棄物の区分です。次が、別紙2としてモニタリング結果の一覧表でございます。別紙3、別紙4については、トラブルの正式評価でございます。おのおの別紙がついてございます。資料1の別紙4、別紙まででございます。

引き続きまして、資料2、ホチキス留めになってございます。長期処理計画改訂版でございます。これについても資料がついております。別紙1でございます。

最後になりますが、資料3でございます。2020年度設備保全実施項目と2021年度設備保全予定項目でございます。この資料も別紙1、並びに参考資料としてA3のカラー刷りがついておりますので御確認願います。

その他資料といたしまして、まず1番目が書面開催の委員御意見です。それへの事務局の回答でございます。

その他資料の2でございます。東京事業所の事業だよりでございます。

最後に、東京事業所のパンフレットをおつけしております。このパンフレットにつきましては、委員の方のみになってございますので、よろしく願います。

資料に不足がございましたら、事務局まで御連絡ください。

以上でございます。

○委員長 では、そういうことで進めていきたいと思います。

議事次第の順番で行きますと、最初が「2020年度下期の操業状況」でございます。

まず、事務局のほうから資料の御説明をお願いいたします。

●JESCO それでは、資料1「2020年度下期の操業状況」について御説明を申し上げたいと思えます。説明につきましては、画面のパワーポイントのほうで説明させていただきたいと思えます。右肩にページ番号を振っておりますが、これが資料1のページになりますので、適宜御参照いただければと思えます。

画面を御覧いただきたいと思います。「施設の稼働状況」になります。トピックスといたしまして、昨年10月10日、No.1水熱反応器系統の蒸気漏えいトラブルの発生がありまして、No.1からNo.3全てを点検によりまして68日間停止いたしました。トラブルの詳細につきましては、後ほど御説明させていただきたいと思えます。この影響で2020年度の年間処理計画を下方修正しております。

そして、コンデンサーの処理完了は今年度2021年度末の処分期間内を目指しておりましたけれども、計画処理完了期限となります2022年度にも処理を行う計画に変更してございます。変圧器と廃PCB油につきましては2021年度末、処分期間内の完了予定に変更はございません。

次に、コロナ感染症に関してでございますけれども、対策の徹底を継続してきております。これまでにJESCO及び運転会社には感染者の発生はございません。請負会社には感染者が発生いたしましたけれども、あらかじめ定めた連絡体制の下で、速やかに情報共有しまして執務室の除染、あるいはJESCOと運転会社の濃厚接触の可能性のある方、15分以上打ち合わせをした方などを洗い出しまして、結果としては対象者はおりませんでした。迅速に措置ができたと思っております。

次の画面、表1は1月までの操業実績の表です。計画変更した受入物、これは赤で囲いましたもので、変圧器以外は計画を下方修正してございます。

次の画面をお願いいたします。1月末現在の進捗率になります。表の一番右側の赤枠の数字に

なります。変圧器が93.8%、コンデンサーが88.5%、廃PCB油が86.6%、リン含有PCB油が35.4%。廃粉末活性炭が59%です。リン含有PCB油のところを少し補足しておきたいのですが、対象数量が全部で287トンありまして、これは1社の保管事業者さんがタンク保管しているものになります。このリンの成分というのが水熱分解設備や排水に影響を与えるということで、昨年、前処理設備を設置しまして、リンを除去してから水熱分解設備で分解処理をしております。昨年4月より前処理設備の稼働を開始しまして、リン含有PCB油の本格処理を開始したところでございます。

次の画面が2020年度の月別の処理の推移になります。左側の上と下が変圧器になりまして、上が台数で下が重量になります。赤の数字が補足的に速報で年度の実績が出ましたので記載してございます。変圧器につきましては、当初の年度計画のとおりでおおむね計画どおりの処理実績となっております。それから、右側がコンデンサー、上が台数で下が重量です。青の点線が当初の年度計画になります。蒸気漏えいトラブルによりまして下方修正したものが赤の点線になります。赤字の年度速報値は台数は5,308台ということで、修正後の計画を上回っております。重量は修正計画どおりということになりました。

裏のグラフがリン含有PCB油の処理状況です。修正後の年度計画100トンに対しまして、速報ベースですけれども104トンということで、修正年度計画を上回っております。

次の画面は、これまでの処理実績と2022年度計画処理完了期限までの処理計画になります。上側が変圧器になります。まず、先ほど小川のほうからも御説明ありましたとおり、今年度が処分期間ということになりまして、前回、環境安全委員会を书面開催でさせていただいた中では、今年度中に処理を完了するという計画をお示ししていたところであります。上側が変圧器です。変圧器につきましては、本年度の処分期間内に処理を完了する計画に変更はございません。

下側の図6になります。こちらのコンデンサーにつきましては、昨年10月の蒸気漏えいトラブルによりまして2か月強にわたる操業停止、この影響によりまして、本年度中に処理を完了することが困難になりました。来年度、計画処理完了期限の2022年度に1,269台を繰り延べる計画に変更してございます。この1,269台はJESCOにまだ登録いただいていないものが対象になります。

次の画面、上側の図は廃PCB油の処理実績と処理計画です。ここにはリン含有PCB油を含む数字で今年度中に処理を完了する計画となっております。今年度、2021年度は処理量が過去に比較して高くなっております。下側の図8、純PCB換算の処理量を御覧いただきたいのですが、上の図7の廃PCB油として搬入する量、これに加えまして変圧器、コンデンサーに含まれるPCB油も含めた合計の処理量がこの純PCB換算処理量になります。過去に年間400トンを超える処理も行っておりまして、来年度は250トン程度ですので、水熱分解設備には十分余力があると考えております。

施設の稼働状況に関する御報告は以上になります。

次の画面は「PCB廃棄物の搬入・搬出・処理」になります。赤線の11月、これはPCB廃棄物搬入車両の状況になりますが、赤枠の11月、12月、ここはトラブルの停止の影響で搬入台数が少なくなっております。年間では速報値で赤で記載させていただきましたけれども、663台ということで例年よりも少ない台数になりました。1日の平均搬入台数は3台程度になります。

次のページをお願いいたします。二次廃棄物の低濃度汚染物と廃アルカリ、こちらの搬出につきましては、無害化処理認定施設のほうに搬出をしております。5,000ミリグラムパーキログラム

以下のPCB廃棄物につきましては、東京都様、江東区様との取り決めで月間の排出量の上限を決めて運用しているところでございます。低濃度汚染物につきましては月30トン、搬出車両が6台以下、それから、廃アルカリが月33トン、4台以下ということで運用しております。廃アルカリにつきましては、リン含有PCB油の前処理で発生するものでありまして、昨年4月より本格的に搬出をしているところでございます。

それから、下側の（3）、高濃度汚染物です。東京事業所で処理困難な5,000ミリパーキログラムを超えるPCB濃度の廃棄物につきましては、北海道事業所で処理をできることになってございます。排出量は月間のお約束ということではなくて、トータルの受け入れ量ということになりますけれども、160トンとされていましたが、できるだけ削減するべく、今100トン以下を目標に取り組んでいるところであります。

次の画面は詳細の説明は割愛させていただきますけれども、お手元のページですと、資料1の8ページの表5になります。右側に低濃度、廃アルカリ、それから、北海道事業所に行く高濃度という形で集計できるようにいたしまして、それぞれ先ほど御説明いたしました取り決めの範囲内で搬出を行っているということを整理してございます。全て取組の範囲内で行っております。高濃度の搬出について記載してございませんでしたが、3月に計3.7トンの搬出を行っております。

次の画面は事業所内の工事やメンテナンスで発生した金属等を洗浄処理しまして、有価売却しているものの実績になります。そのほかに北海道事業所への搬出量削減のために高濃度廃棄物の洗浄処理、加熱処理で低濃度化する取組も行っているところでございます。

PCB廃棄物の関係の報告は以上でございます。

次に「排出源モニタリング及び敷地境界での測定結果」になります。図9はモニタリングの測定値を示しております。この図の中で敷地境界大気測定位置が左上のコーナーと右下のコーナーに赤丸で示してあります。お手元の資料1では10ページになります。左上が北西端、右下が南東端とありまして、前回の書面開催のときに、この測定地点の方位が実際に地図上でのイメージとちょっと合わないという御指摘をいただきました。そこでこの北西端と南東端という名称なのですけれども、環境保全協定の中で測定地点の名称として使用されているものでありますことから、※を少し振りまして、敷地中心からの方位も併記させていただいたところでございます。

次の画面は建物からの排気と換気の結果でありまして、全て協定値を下回りまして、良好な状態になってございます。

次の画面は排水の結果です。全て協定値を下回りまして良好な状態になっております。排水中のダイオキシン類、赤字で12というのが見えるのですが、昨年2019年7月に排出中のダイオキシン類が基準を超過するトラブルがありましたが、再発防止策を講じた結果、その後は協定値を満足している状況を確認してございます。

PCBの敷地境界濃度は基準値を下回っておりまして、良好な状態を維持しているところでございます。

次の画面は敷地境界の大気中のダイオキシン類の濃度を示しております。先ほど御紹介の2019年7月、1.9ピコグラムTEQ立米という環境基準値の0.6をはるかに上回る基準が観測されて、これが原因で敷地外からダイオキシン類が排水に混入して基準値を超過するというトラブルが発生し

たところでございますが、敷地境界のダイオキシン類の濃度は良好な結果ではありますが、南風の夏に高い傾向というのはまだ継続しておりますので、今後も注視をしていくということで考えているところでございます。

次の画面をお願いいたします。雨水とダイオキシン類のPCBの結果になります。ダイオキシン類は敷地外からの影響を受けるということで、雨水中のダイオキシン類がやはり南風になる夏に高くなるという傾向が継続しておりますので、今後も注視していこうということで考えているところでございます。

環境モニタリングについては以上でございます。

次の画面は運転時のトラブルの状況と対応になります。2つのトラブルがありました。

(1) としまして給水加熱器差圧大による水熱反応器停止のトラブルになります。このトラブルは前回、環境安全委員会の書面開催で個別に説明させていただいておりますので詳細は割愛いたしますが、軟水塔から高度成分を除去していない水が送水され、そして、給水加熱器に高度成分が析出して閉塞してしまった。そして、水熱反応器が緊急停止に至るというトラブルでありました。

その結果、No.1の水熱反応器系統が51日間、No.3が23日間停止いたしました。この間、PCB油の処理が制限されましたけれども、廃粉末活性炭スラリーの処理を停止することによりまして、変圧器、コンデンサーの処理への影響はございませんでした。

次の画面はトラブルがあった場合の評価でございます。横軸が人身への影響、環境への影響、事業への影響、縦軸が評価レベルということで3、2、1という形で3が一番重い、1は影響がないという整理をさせていただいております。この給水加熱器の差圧大による水熱反応器の停止トラブルの正式評価としましては、人身・環境への影響はなく評価レベル1、事業への影響は年度計画に影響がないということで評価レベル2ということを正式評価とさせていただいております。

次の画面はNo.1水熱分解設備の補助反応管以降の蒸気漏えいトラブルということで、今回の2か月あまりの停止になったトラブルについての御説明を少し詳細に説明したいと思います。まず10月10日土曜日です。①のところにありますように、補助反応管のドレン管から蒸気漏えいが発生しました。これは経年的に配管の腐食が進行してピンホールが開いたということによるもので、10時11分に蒸気漏えいが発生しております。

次に②のところの冷却器入り口蒸気漏えいです。①の蒸気漏えいに対応するために、10時35分頃から圧力を下げる脱圧を開始しました。配管内の処理液が圧力が下がってそこで気化してしまって、配管内の流速が急上昇しております。そして、配管内の個体成分が剥がされて同伴して配管の曲がりの部分、エルボーの部分で摩擦で削られて、11時48分に破孔して蒸気漏れが発生したという事象でございます。

次の画面は①の腐食による蒸気漏えいの原因になります。ドレン配管は100℃から300℃で使用されておりまして、腐食可能性があることから定期点検で検査対象とはしてございました。行き止まりの配管で下流に行くほど温度が低下するということで、温度が高い上流側の検査で全体を代表するという考え方で、下流側は検査を行っておりませんでした。検査範囲外の下流側で局部腐食が発生して経年的に進行したもので、検査対象外としていたことから腐食に気づくことができ



なかったということが原因になります。

そして、応急対策といたしましてNo.1、No.3、水熱反応器系統の全てを停止しまして、類似配管の応急点検を行いました。類似配管としましては、100℃から300℃の腐食の可能性のある温度域で使用している配管、そして、下流に行くほど温度が低下して、上流を代表で検査をしているけれども、下流側の検査していなかった箇所全てを検査いたしました。腐食が何か所か見つかっておりますけれども、全て取替補修を行っております。

次の画面は再発防止対策になります。定期点検で検査対象外としていました100℃から300℃の腐食性ありの配管、今後の定期点検で検査を実施するということにしております。点検方針を表に示しました。水熱反応器の下流側の100℃から130℃の配管は代表検査をしないで、全て毎年定期点検で検査を行います。一番下のほうに書きましたが、現在は100℃以下なのでありますが、過去に100℃であった履歴のある配管がありますので、そこについても今年度、2021年度の定期点検で念のため検査を行う考えです。

それから、右側ですけれども、水熱反応器の上流側の循環処理液、この循環処理液は腐食性が低いものです。それから、過去に配管取替等があったときに腐食がなかったということも確認されているものですが、念のために2021年度定期点検で検査を行う計画にしております。

以上が腐食によります蒸気漏えいの原因と再発防止対策になります。

次に、脱圧によります摩耗で処理液が気化して、摩耗して蒸気漏えいという、こちらの原因と対策です。原因は処理液が気化しないように脱圧する手順が定められてなかったということになります。再発防止対策としまして、脱圧操作をどのようなトラブルの対処方法として使用するか、この目的を限定して明確にいたしました。それから、今回土曜、休日に発生したわけですが、JESCO不在時でもトラブルがあった場合には、JESCOが運転会社と情報を共有した中で、脱圧操作を行うかどうかという判断を行うということを明確にいたしました。最後に、処理液が気化しない脱圧操作の手順を作成しております。

次の画面はトラブルの影響です。水熱反応器No.1からNo.3全てが68日間停止しております。年間処理計画への影響につきましては最初に御説明したとおり、年度計画を修正したという形になっております。

トラブルの正式評価としましては、人身及び環境への影響はありませんでしたので評価レベル1になります。事業の影響につきましては、年間計画に影響がありましたので評価レベル3ということで正式評価とさせていただきます。

トラブルの報告については以上であります。

次の画面は作業従事者の労働安全衛生になります。まずは作業環境の測定結果ですが、法定管理対象の作業場は3か所ありますが、こちらは全て作業環境基準を満足して良好な状態を維持しているところでございます。

主な作業場、上が変圧器の解体、下がコンデンサーを解体する作業場の作業環境濃度になります。毎年2回、夏と冬に測定を行っておりますが、気温が高い夏は濃度が高い傾向にあるということが見て取れるかと思えます。

次の画面は血液中のPCB濃度の測定結果になります。毎夏、作業員全員の血液中PCB濃度を測定しております。昨年夏の検査者は122名でありました。血液中のPCB濃度の基準は25ナノグラムパ

ーグラム、分母は血液です。東京PCB処理事業所では、自主目標としまして10ナノグラムパーグラムというところを掲げて管理しております。自主目標値の超過者が3名おりました。1名は過去に超過して配置替えをして、今はPCB油のないような作業をやっているのですが、10前後で推移をしているということで、今回も超過してしまったという方でございます。あと3名のうちの残り2名は昨年退所しております。フォローとして血液中PCB濃度の測定を継続しまして、今年の2月に測定結果が出ております。10ナノグラムパーグラムを下回る結果になってございます。

次の画面はヒヤリハット活動、それから、業務改善提案の活動の報告であります。ヒヤリハット活動は、作業者一人一人の危険予知感性を高める活動で、また、気づきにくいとか、あるいは見過ごしやすいリスクを皆で共有することを目的に、積極的に展開をしているところであります。それから、業務改善提案活動につきましては、安全性、効率性、作業環境改善といった観点から積極的に行うように作業員全員に促しているところでございます。

次の画面はちょっと小さいのですが、お手元の資料では17～18ページになります。表12はヒヤリハット件数で、1月末時点で2019年度の実績を既に上回っている。表13の改善提案につきましても、10月末現在で2019年度の実績を超えているということで、積極的に活動を展開してございます。

次の画面、教育訓練の実施状況を報告させていただいております。運転会社が行っている安全教育・訓練の実施状況のリストになります。

次の画面は総合防災訓練の報告になります。表16は毎年臨港消防署さんと共同で総合防災訓練を実施しておりまして、昨年度も共同で実施させていただいております。また、江東区様にも御参加をいただいたところであります。なお、4月から所轄消防署が深川消防署に変更になりました。

表17は夜間休祭日にJESCOが不在時の情報連絡訓練の報告になります。年3回実施しているところであります。

表18は夜間休祭日、これもJESCO不在時の防災訓練ということで、運転会社4班で24時間体制で交代勤務で対応しておりますので、各4班、全てで訓練を行っているところでございます。

次にSOP、これは標準作業手順書の総点検を行いました。蒸気漏えいトラブルで2か月程度の操業停止がありましたので、その間、SOPの総点検を実施しております。全291件、一つ一つ読み合わせを行って議論して、そして、分かりやすく、使いやすくするという工夫を凝らしております。その結果、新規設定を含めまして148件の制改定を行いました。

最後になりますけれども、施設見学の状況になります。昨年3月にコロナ対応で見学の受け入れを中止いたしまして、現在、受け入れについては停止を継続しているところであります。

御報告は以上になります。

添付の資料のほうだけ確認をさせていただきます。資料1がありまして、資料1の別紙の1に二次廃棄物の区分という形で添付してございます。それから、資料1別紙の2ということで環境モニタリング結果の一覧ということで添付いたしました。それから、トラブルの関係で資料1別紙の3で給水加熱器入り口/出口差圧大の正式評価のほうを添付しております。資料1の別紙3の別紙で、このトラブルの概要のほうを添付しております。それから、資料1の別紙の4で、こちらは蒸気漏えいトラブルの正式評価を添付いたしました。その次、資料1別紙の4別紙で、この蒸気

漏えいトラブルの最終報告の概要版を添付してございます。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

ただいまの報告について御意見・御質問等がございましたら、よろしくお願いいたします。いかがでございましょうか。

昨年度、事故が起こったのですが、かなり影響があったことは確かなのですが、一応長期の計画を見てみると、コンデンサーについて今年度中に終わるべきところを来年度に延びてしまうことになるということが一つあるのですが、1年余裕を取っているところでは済ますことができそうだというのが全体の御説明だったように思いますが、いかがでしょうか。どなたも手が挙がっていないようですが、よろしいですか。どうぞ。

○委員 先ほど委員長からも御発言のあった事故のことです。資料がどこを指しているのかがよく分からない部分もあったので、少し理解が進まなかったところがあるのですが、資料1の別紙の4の別紙という最終報告の概要版の中で「トラブルの概要」の(1)トラブルの概要というところで、下のほうに、換気出口排気及び排水のPCB濃度は協定値を満足し、環境への影響はないと書いてあります。結果的には環境への影響がなかったということで、これは事故があつて少し計画が後ろ倒しになったことはありますが、この点は幸いであつたかなと思います。ただ、これがいつの時点で確認されたのか、さらにそれが地元になどどのように伝わったのかが、先ほどの御説明ではよく分からなかったもので、どういう時点でこの環境への影響がなかったということが判明したのか、それが地元になどどのように伝えられたのかということについて確認をさせてください。

○委員長 事務局のほうから御回答をお願いいたします。

●JESCO まず、環境への影響につきましては、当日(3)で発生場所、反応塔室、それから、熱交換器室とありまして、まずここの作業環境濃度を測定して、作業環境基準以下であるということを確認いたしました。それから、同じこの発生した日に建物からの換気、ここのサンプリングをいたしまして、これについても排気の基準以下であることを確認させていただいております。

それから、周知に関しましては、今の結果につきましては環境安全委員会の皆様のほうには速報という形で御報告させていただきました。それから、この事案の公表につきましては、今日の資料の一番後ろのほうに事業所だよりというものが、その他資料2というところでついでございます。こちらのほうで、これも速報ベースではありますが、このその他資料2、No.63の裏側、トラブル報告ということで、2のほうで水熱分会設備No.1反応器系統、補助反応管出口のところで、これはホームページのほうで公表してございます。ということで、こちらで周知をさせていただいたところでございます。

以上でございます。

●JESCO 1点だけ補足させてください。

いつ測定したかについては、蒸気漏れのときに速やかに作業環境、同時刻に測っております。また、作業環境というのはプラントの作業するエリアなのですけれども、それが排気設備というのに導かれまして、活性炭を処理して建屋の外に出ます。その両方を同時に測定して、異常のないことを確認しております。

○委員長 委員、いかがですか。

○委員 ありがとうございます。

環境安全委員会というのは地元の方も含めてということですよ。ということでよろしいでしょうか。ちょっとこの資料だけだとそれが読めないの、きちんとその点については書いていただいているのでしょうか。

○委員長 先生、回答はそれでよろしかった。追加の回答は必要なかどうか。

○委員 ちょっとリモートも含めてなので、やややり取りが難しいのですが、資料の中で、やはり地元はどう伝わったのかというのをきちんと記載をしていただいたほうが、今後のためでもあると思います。ぜひそこはよろしくお願いいたします。

○委員長 そこは事務局のほうで少し手直しをして、委員の先生方に後でお配りいただくようにしてください。

●JESCO 承知いたしました。

○委員長 もう一つ、委員の御発言が小さいです。多分、マイクの取り方が違う、こちらのほうに聞き取りにくくなっているの、事務局のほうで調整をお願いいたします。

事務局から御発言があればどうぞ。

●JESCO 事務局から、今、先生のほうからございました点、まず、対外対応につきましては、資料1の別紙の4の別紙のところに「2. 対外対応」とありまして、こちらに東京事業部会、環境安全委員会委員へ御報告させていただきましたということの記載をさせていただき、あと、関係行政さんのほうへの連絡について記載させていただきました。

それから、先ほど事業所だよりをホームページで公表したということについては、ちょっとここではちゃんと説明していませんでしたので、そういうところも含めて記載を追加していければと思っております。

○委員長 委員が言われたのは環境影響の部分だったと思うのですが、モニタリングされたということは分かるのですが、どのタイミングでモニタリングをしているのかということとちゃんと記録しないと、この事故の場合はあまり爆発事故みたいなことでは必ずしもなかったのですが、一過性でどんどん濃度が下がったときに当たっているということではないのだろうと思うのですが、ここら辺の情報もきっちり整理をしていただいたほうがいいのかなと思いますので、それらも踏まえてどうモニタリングをして、どこを確認した、どの時点でどう確認したかということをお説明いただく資料を用意して、後でお送りいただければと思います。そうすれば納得していただけるのかなと思います。よろしくお願いいたします。

●JESCO 承知いたしました。

○委員長 よろしいでしょうか。ほかにございますでしょうか。よろしければ、また最後にでも、全体で御意見をいただく場面でいただいてもよろしいかと思っておりますので、次に進みたいと思います。

次は2番目の議題でございます。「2020年度 東京PCB処理事業所 長期処理計画（改訂版）」です。御説明をお願いいたします。

●JESCO では、報告させていただきます。

まず、資料の図とか表をスクリーンのほうに抜粋で載せますので、スクリーンのほうに目を向けていただいて御説明させていただければと思います。

まず、1 としまして「東京PCB処理事業所における処理対象物の分類」です。資料1では変圧器やコンデンサーのお話をさせていただいたのですが、改めて、東京での対象物をまず表の1から説明させていただきます。左側のほうに対象物がありまして、変圧器、コンデンサー、あと、下に行きますと安定器、その他汚物、廃PCB、廃粉末活性炭、二次廃棄物等があります。まず変圧器とコンデンサー、これが主体の東京事業所での処理になります。

次の区分は大きさ区分、重量のほうで分かれておりまして、一番大きな変圧器については超大型、20トン以上を対象としております。大型変圧器、中型、小型と重量について区分がありまして、最後に車載トランス、車載のものと、一部新幹線の車載トランスというのは大量にあるような形で対象物になっておりました。

コンデンサーの大きさ区分で超大型、大型、小型と分かれておりまして、最後の極小型というのが3キロ未満となりまして、これは東京では対象とならない小さいものになります。こういった対象物と、あと、当事業所のほうで処理するのは2つ下がった廃PCB、その下の廃粉末活性炭、こういったものを処理しております。

右のほうに行きますと、ほかのエリアからというのがありますが、これは2014年度、平成26年度にPCB廃棄物処理基本計画の変更がありまして、東京の場合は1都3県でしたが、ほかのエリアからのものも処理する、あるいは東京のものをほかのエリアで処理いただくとか、そういったエリア間移動のものがありましたので、その変化についてです。

まず、変圧器は北海道エリアのもの5台、超大型のものを東京のほうに受け入れて処理すること、あと車載トランスは豊田エリア、新幹線に積んでいた車載トランスが豊田エリアに集まってしまいましたので、それは東京で処理するというものの取組をしております。

また、コンデンサーにつきましては、東京のエリアのものを北九州のほうに約1年間分の処理量を処理いただくような処理案、東京で苦手な特殊なコンデンサーを中心に持って行って処理する。そんなものの取組があります。

また、極小型とか安定器、これについては北海道のプラズマのほうで処理するというので、北海道のほうで処理をしております。

また、下のほうに行きまして廃粉末活性炭、これは北九州・大阪事業所で真空加熱して処理する設備、VTRという設備の商品名的なものがあります真空加熱の設備ですけれども、その設備のオフガスのほうで、後段のほうで粉末活性炭というものを使っています。それがそれぞれの処理設備でも処理するのですが、処理しきれないものを東京に持ってきて処理する。そんなことを行っております。

最後は二次廃棄物、東京エリアで操業させていただいていく中で、高濃度廃棄物5,000ppm以上のものを高濃度としていまして、それを北海道事業所のほうに払い出して処理いただく、そんなことを行っております。

次が表の2になります。こちらでは東京エリアの対象物ということで、左のほうが変圧器、コンデンサーに対して1都3県のそれぞれの数字、次の縦のラインがJESCOへの登録量という欄になります。これはJESCOに登録して、それを契約して処理することですが、まず登録量、変圧器については3,732台、コンデンサーについては8万6883台というのが登録されております。

次がJESCO未登録、JESCOに登録されていないのですが掘り起こされて処理をいずれすると思わ

れている未登録のものになります。変圧器が192台、コンデンサーについては4,028台が、それぞれ未登録の対象物が分かってきました。それを合算したのが次の隣になりまして、9月1日現在での処理対象量が変圧器は3,924台、コンデンサー9万911台が我々の処理する対象物になります。

変圧器につきましては、この表を右に行きますと、2016年からこういう長期処理計画ということで登録量と未登録を合算した対象量が出ています。変圧器については2016年からよく精査していきますと低濃度であったとか、あとネオントランスという名前でトランスとカウントしたのですが、安定器と同じものであったとかということで、だんだん数字が減ってきたのが変圧器になります。よく精査していく中で対象量が少なくなっているような変更が大きな流れになります。

コンデンサーにつきましては2016年7月5日、7万9341台から現在の9万911台、約1万1570台が増加しています。約4年間でこれだけ増えてきております。こういう変化が毎年報告する中で起こっております。ちなみにコンデンサーは20年度末で8万2807台ぐらいの処理が大体見込めましたので、2017年2月27日の8万2875、このぐらいの量は大体処理しきれてきたかなという状況になります。こういう推移があります。

未登録について、今回、昨年度の取組について、ここで紹介させていただきます。右のほうに根拠データという表があります。右から4番目のところは特措法になりますので、まず廃棄物となっているPCB廃棄物、届け出られているもの、あと、右から2つ目が高濃度PCB管理状況届出ということで、電気事業法ですので、これは現在使っているトランス、コンデンサーのものになります。

こういったものが年度末に届け出されて、大体6月ぐらいに自治体のほうに報告されますが、そういった集計された数字を我々が使おうと思うのですが、やはり時期的に1年ぐらい前のものを使わざるを得なかった。タイミング的に古いものになります。今回は各自治体で少しばらつきはありますが、可能な限り最新のデータを特措法なり電気事業法の管理状況届出でなるべく最新のものを使いましょうということの取組。

あと、間に挟まれた自家用電気工作物設置届出等があります。これ自家用電気工作物を設置するときの届出ですが、過去に届出の変更ありませんので、古い施設のままだもしれませんし、その当初のもののデータもすり合わせができるのではないかとということと、あと、一番右のP協データ、これは旧財団法人の電気絶縁物処理協会のデータ、こういったものも参考になるのではないかとということで、そういうのを加えて、なるべくより多く掘り起こし等ができるような形での取組をしております。

この表の一番左側が1都3県、政令市16自治体があります。その隣が令和2年3月の首都圏広域協議会での今後の未処理という数字になります。令和2年度の今後処理以降、処理するという数字になります。トランスの場合は685台、コンデンサーは2万5965台ということで、すごく多い数字がカウントされてきておりました。その中で、もうちょっと精査するために各16自治体に対して、JESCOと関東地方環境事務所様とで、それぞれ訪問して打ち合わせをさせていただいております。

その結果、各自治体のほうで未処理についてよく精査した結果が、黄色で塗ってあるところが、その数字になります。令和2年度以降未処理ですよという数字、その出し方は、例えば東京都様

については未処理の量が変圧器の場合56台とか、コンデンサーの場合は713台、かたや埼玉県については、合計は10台ですとか、合計はコンデンサー1,957台ということで、出し方はちょっと差があるのですが、それに対してJESCOの登録というのが真ん中のブルーのところなのですけれども、その数字を引いたりということで、今回の数字を精査しております。その結果、トランスについては192台が未処理、未登録、コンデンサーについては4,028台に絞り込まれました。その合計も先ほどのカウントから大分精査されて減ってきている状況。こういった未登録について、取組をいろいろな広範囲で自治体のほうも対応いただいて取り組んだのが令和2年度になります。これが分母になっております。

そういったことを踏まえまして、東京エリアでの処理対象量の推移ですが、青いほうの変圧器、緑のほうのコンデンサーになります。変圧器については、少しずつ見直すことで従来減ってきていたのですが、令和2年度は幅広く自治体と取り組んだことで、少しプラス側に動いているのが変圧器の推移になります。

コンデンサーは少しずつ毎年やはり増えていたのですが、令和2年度については少し多めに対象量が確認されたという状況になります。

次が、東京事業所での処理対象量の表の4というところになります。数字がたくさんあるのですが、今のを総合的に書いているものになります。初めの横軸が1都3県、縦軸が変圧器、コンデンサーの大きさ区分になります。右から5つ目のところが全対象量ということで、変圧器は3,924台、コンデンサーが9万911台、これが先ほどの表の2と同じ数字になります。変圧器の場合は右に行きますと35台。これはほかのエリアから持ってきて処理しますということで、東京で処理するのはこれの足し算になります。3,959台が対象物となります。

コンデンサーは逆に他のエリアの北九州事業所で処理を依頼しましたので引き算になります。東京事業所の施設でやるのが8万3986台、こんな内訳になっております。

それぞれの下に未登録の数字が192台、コンデンサーが4,028台ありまして、これは処理するトータルについては、大体両方とも4.8%が未登録の割合になっております。

では、2ポツ、表の5になります。これは東京事業エリア外からの対象物の変移をもう一度ここでおさらいしております。まず変圧器につきましては、北海道から超大型については5台を対象としておりました。2019年度、これは処理完了しております。

車載の変圧器については、豊田エリアから30台を持ってきて処理しておりましたが、これも2019年度、処理が完了しております。

次の粉末活性炭は、それぞれ北九州事業所、大阪事業所での設備の後段で使う運転廃棄物になりますけれども、ここに書いてある数字を計画しておりまして、北九州については終わったのですが、大阪のほうはまだこの数字を処理している過程になります。

3番については、ほかの事業所で処理をお願いしているものになります。コンデンサーが北九州エリア、これは2018年度、平成30年度に北九州エリアのほうで処理を完了いただいております。あと、安定器、その他汚物につきましては北海道事業所、これはまだ継続して処理をいただいております。

次に4ポツになります。ここが変圧器について昨年度までの処理量、あとは19年度までの処理量と2020年度、あと21年度、22年度ということについての变化を示しております。2019年度までは

ここに書いてある数字です。変圧器3,696台、2020年度、先ほど資料1で報告がありましたが、年間で25台の処理を完了しました。計画と大きな差はない状態です。2021年度、今年度が処分期間になりますので、全ての処理を対象と考えております。トータルは239台ですが、登録が47台、未登録が192台ということで、未登録が80.3%の割合で、今後、登録に移行して処理するところに少し取組の課題があるかと考えます。

また、下のほうに来て、スクリーンのほうで○をして赤字で書いたのですが、未登録の中に重量の区分が分からないものがどうしても残っておりまして、192台のうち122台が重量が分からない、大きいのか小さいのか分からないというのがありました。それは機械的に小型というところに入れております。192台の未登録のうち、重量が分からないものは63.5%ぐらいに相当する122台がまだ重量が分からなかった。ただ、自治体のほうで一生懸命その辺は対応いただいておりますので、常に変化してくる数字ですので、これはだんだん分かってきている状況には変化していると考えております。

変圧器のほうは以上になります。

コンデンサーにつきましては、この表の上のほうが北九州で処理した数字を含めたものです。東京エリアで行っているのは2段目になります。2020年度、5,308台の処理が終わりましたので、この資料では5,132台を計画しておりましたので、少しプラスすることができました。それは176台ぐらいです。それが数字上では、2022年度の数字が少し減る傾向にはあります。未登録については、今後4,028台がありまして、トランスでも御説明したように重量が分からないというものが、やはりまだ残っております。それが1,856台、未登録のうち46%に相当するものが、まだ重量が分からない状況になっております。2021年度、処分期間の今年度につきましては、年間では7,000台、登録の残っている4,241台、これは全て数字上処理ができると考えています。

残す未登録については、4028台のうち2,759台は数字上、今年度の処理が可能かと考えております。残る重量も分からない未登録のものが1,269台。これが一応数字上2022年度に残させていただいております。7,000台というのはまだ上限ではありませんで、過去の処理実績では7,500という実績もありますので、より多くの処理に取り組んで、2022年度の処理がより少なくなるような取組を続けていきたいと考えております。

次のページになります。ここでは表9、廃PCBと廃粉末活性炭について計上させていただいているページになります。一番上の廃PCBについては、リン含有PCBという1事業所から発生している対象物があります。これは286トンぐらいが対象になります。ここに割合が大きいもので、その処理がこの数字に大きく支配してきております。この資料の時点では、リン含有PCBの2020年度の処理は100トンと見込んでおりましたが、3月31日の完了で104トン、4トンだけプラスして終わることができました。残りは2021年度に処理を完了する予定になっております。

廃粉末活性炭につきましては、北九州が完了しましたが、大阪事業所がまだ処理が発生してきております。2021年度、受け入れて処理を行いますが、まだ大阪事業所でどうしても自己完結できない廃棄物がありますので、2022年度も引き続き受け入れて処理を終えようと考えている状況になります。数字については、ここに書かれている数字になります。

最後になりますが、東京事業所での水熱分解設備での運転状況、廃PCBとか液処理は水熱分解処理で行っています。そこについてのまず対象の変圧器とかコンデンサーから出てくる油をこの



表の中で計上させていただいております。

また、廃粉末活性炭も重量を表現させていただいております。その一番下が純PCBということで、純PCBの量としての数字を計上させていただいております。2021年、22年度の処理量というのは純PCBで233トン、また、最終年度が22トンという形になっております。資料1でも報告ありましたが、純PCBの年間での処理実績としては、過去に426トンぐらい年間で処理しているところがありますので、21年度、今年度、233トンというのは約半分に値しますが、十分な水熱の処理能力がありますので問題なく処理できると考えております。

長期処理計画、従来は10月頃に計画して、それを年度末の処理実績を踏まえた改訂版ということで報告させていただいているものになります。

報告は以上になります。

○委員長 ありがとうございます。

今の御説明について御意見・御質問等をいただければ、全体のトータルのものについて資料1のほうで年度計画を説明いただき、その中身を細かく御説明いただいたのかと思います。

委員から手が挙がっています。どうぞ。

○委員 ありがとうございます。

特に資料2、今、御説明いただいたことに関連してなのですが、冒頭の取締役の御挨拶、あるいは資料1の昨年度下期の操業状況の中では、コロナの影響がないわけではないけれども、処理自身は進めておられ、従業員さんにも感染がないということだったのですけれども、未登録の把握とか、いわゆる掘り起こしなどに関して、そういうことに関してコロナの影響が及ばないのかどうかというのはちょっと気になる点でございまして、もう1年あまり、今日のこのオンライン会議も含めて、新しい日常の中での仕事のやり方の中にそれぞれ慣れてきているわけですが、やはり圧倒的に感じますのは、やはり現場に行って何かいろいろ確認をするとか、そういう出ていく機会が非常に限られておりまして、そういった点で、やはり現場に行って確認をするとか、やはり向かい合った上でしっかりとものを確認していくという仕事のことが非常にやりにくい状況になっているのかなという点をちょっと危惧しております。

そういった点で、掘り起こしのものが当初より遅れていないのか、あるいはコロナが落ち着いたらやろうと思って先延ばしになっているというようなことがないのかどうか、なかなかまだいつまで続くか予断を許さない状況かと思っておりますので、そういった点において、このウィズコロナの中で、この処理事業をある時期までに終えなければいけないということの中で、将来に向けた確認作業といいますか、そういったところに遅延を生じていないかどうかという点において、そういったところについて対応をお取りになっているかどうかという点について、御説明をお願いできればと思います。

○委員長 今、JESCOも掘り起こしの作業を各自治体と一緒にやられておられるので、実態的に分かっていると思われますので御説明をいただけますか。

●JESCO 今、御質問いただきました点についてお答えさせていただきます。

掘り起こしの状況について御報告させていただきます。従来ですと、保管者については全体の説明会という形で対応しておりましたけれども、今現在は保管者の数がかなり減っております。実際、今残っている方々というのはコロナの影響もある中ではあるのですが、個別訪問という形

で対応させていただいております。実際、個別に訪問させていただいて一人一人の方に御説明をし、場合によっては御説得をさせていただいて処理を進めていくという状況になっています。特に説得を有する場面については、JESCOだけの力では何ともならない部分については自治体様の御協力をいただいて、支援をいただきながら対応しているという状況になっています。

コロナの影響の関係でございますけれども、国のほうから中小軽減の制度ございましてコロナの助成金の追加助成という制度があります。これは前年度の3月31日、ですから2週間ぐらい前に期限を迎えたのですけれども、このタイミングに合わせて追加助成がございましたので、今までですと中小の方ですと70%補助であったものが90%、個人の方ですと90%補助というものが99%という形で上乗せの補助がございましたので、なかなか処理が進まない方々については、この助成金の説明をかなり強力に皆さん方にお話をさせていただいて、この機会を逃すとまたやりにくくなりますよというお話をさせていただいて進めていったという状況になります。

おかげさまで追加助成の効果もございましたので、なかなか処理が進まない方々については、これをてこにして処理を進めてきたという状況になります。来年も引き続き、助成金はなくなりますけれども、また自治体の方々と一緒になって支援をいただきながら進めていきたいと考えています。

○委員 ありがとうございます。

○委員長 多分掘り起こしのところが一番難しい話で、実際は事業は終わっているのです。終わっているながら、この前の環境衛生の委員会でも、それでも新たに見つかってくるという事例が出てきて、ここをどうしようかというのは、環境省の委員会のほうでどうするかというのは今後検討されるということのようです。私はその場で発言して、決して東京事務所がそれを受け入れることはないよと、個人的な意見としては、この委員会の委員長としては、そういうことを言わざるを得ないと申し上げておきました。そこはかなり難しい話だろうと思います。これはコロナだけではなくて、実態的に北九の経験を踏まえて、大分掘り起こしの作業のスキルが上がっていると、スピード化できているだろうと思いますけれども、どうしても残っているところは出てくるのだろうなと思っています。

いかがでしょうか。ほかに御意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

●環境省 補足で、JESCOさんのほうでいろいろと未登録物件とかいろいろな部分で自治体さんの動向を交えてやっていたいただきましたけれども、単にJESCOさんの見えないところで掘り起こしのデータから自治体さんが動いている部分は、コロナ時代であっても、やはりできる限り、先方の情報を得ながら委託事業で外注さんを使ったり、自分たちで持ち回りで現場に行ったりと、かなり工夫をされてやっておりますので、当事務所のほうは30自治体持っております、そのうちの16自治体が今回、東京PCBの施設と関係していると思うのですが、やはりいろいろな努力をしながらやっていますので、その分だけ補足させていただきます。

以上です。

○委員長 そこら辺のところは随分努力をされているというのは十分理解しておりますけれども、それでも及ばない部分がどうしても起こるだろう、可能性はあるだろうということでございます。

よろしいでしょうか。それでは、次の議題に進めさせていただきます。

議題の3「2020年度設備保全実施項目と長期保全計画に基づく2011年度設備保全予定項目」で

ございます。資料の御説明をお願いいたします。

●JESCO 資料3のほうの説明をさせていただきます。これもなるべくスライドのほうで分かるようにと思っております。画面のほうを見ていただければと思います。

まず、長期保全計画につきましてですが、2014年6月、平成26年に基本計画が変更になりました。ここでは処理の延長ということがなされております。それにつきまして、処理が延長する中で、処理完了まで施設のほうが安全確実に管理して、安定運転できるように長期処理計画ということを報告するような形で取り組んでおります。

まずPの計画ですが長期保全計画、従来も当事業所につきましても定期点検というものがあります。年に1回あるのですけれども、5月から6月にかけて、35日から45日間ぐらい全ての設備を止めて点検をしています。その中で開放点検して整備だけではなくて、長期保全、処理期間が延長したことによって計画的に機器の更新もあるでしょうということで、長期保全計画の主体のところは、機器とかの更新計画を主体に製造メーカー等の情報も得ながら策定しております。

それを基に、毎年定期点検をやっている中の結果を踏まえて見直していくのですが、Dのほうの実行というのは、定期点検で実際に対応している状況になります。その中で計画的な更新・保守を行っていきます。

チェックの評価のほうは実際に定期点検をやった結果、状態も分かってきますので、その辺で今までの計画でよかったのか、あるいはもう少し期間を延ばしても大丈夫かとか、そういう状態に対してのいろいろな評価を各メーカーで行っていきます。

アクションのほうについては、次年度の長期保全計画に対して、毎年計画している保全計画があるのですけれども、それを見直すかどうかというところを見ております。こういったPDCAを年に一度、ぐるっと回しながら、適切な保全対応ができるように対応を行っているところになります。

お手元の資料のほうは本文とか図表でいろいろ書かせていただいております。これは東京事業部会のほうでも審議いただいているもののままの資料になりますので、かなり各設備とか細かな部品のなもの掘り下げて書いておりますので、ちょっとここでは省略しますが、構成としましては4ページのほうが表の1で、2020年度の主な設備のことについて表現させていただきます。5ページのほうは表の2で、2021年度の主な設備保全の実施状況、6ページから7ページのほうで表の3ということで、設備保全の詳細のほうを書かせていただいております。

まず、長期保全計画の年間につきましては参考資料のほうにあります。このようなフォームであります。まず、縦軸のほうに設備、解体設備とか破碎設備とか、トランス、コンデンサーを処理するときの前処理側で機械的に解体していくような設備から中間的な予備洗浄とか、あるいは4番の洗浄とか、あるいは過熱してPCBを取り除くものとか、そういった設備とか、また、6番は水熱分解のPCBを分解するべき液処理の設備、また、廃棄処理設備とか、最後の窒素とか計装とか、全般に関わるユーティリティとか、全体に関わるようなものとか、こういったものを縦軸にしまして、次に個々の主要な機器とかを表現しています。その中で、メーカー推奨のものとか周期とかがあります。何年ごとに変えたらいいとか、そういったものをまず基本のものから捉えまして、2014年から各設備の更新計画みたいなものをデザインしております。

更新については◎で表現しておりまして、主要な機器で更新のものは◎、○は定期点検の際に

必要なところ、欠陥部分を直すとか、修繕的なところでいけるもの、また、△は消耗品というのも必ずあって、交換するとかもありますので、そういった消耗品的に必ず変えるもの、そういったものを表現している中で、これまで我々が経験していく中で時間的に管理して交換するもの、そういった時間基準のものとか、あるいはいろいろ測定した状態で更新するもの、状態による保全とか、そういったものを組み合わせて考えてやっております。そういったことを表現したものが参考資料になっております。見直しがかかったものは赤字で見直したものであるということで、資料のほうは構成されております。

最後になりますが、施設全体に対してどういった主要な更新とか修繕を2020年度にやりましたか、あるいは21年度、これからやりますかというのが、この全体でありまして、緑色のほうが2020年度実施した結果になります。青いほうが次回の5月、6月に対応するものが主になります。中央のフローは当事業所の施設のフローですが、左側からトランス、コンデンサーの対象物が右手に処理するフローになっておりまして、前処理設備的には機械的な設備が多く、また、中間的には加熱とか洗浄とか特殊なものもありますが、あと、水熱とか、機械的な設備から化学プラント的な設備、あと、ユーティリティーとか、かなり様々なものがあります。

使って年数がたつと摩耗するとかいろいろなところの機械的な影響とか、あと、熱的、化学的な影響を及ぼしたようなものは腐食するとか、いろいろな状態の変化があると思います。そういったものを各全体のプラントをくまなく点検して適切な処置をしております。また、電氣的に絶縁が悪くなって交換しないといけないといったものもありますので、施設全体に対して点検をして更新していく、あるいはメーカー推奨のものを定期的に更新していく。そういったことを主に、期間延長になりましたが、そこでプラントのほうの健全性を失わないように対応しております。

また、2020年度に経験した蒸気漏れとか、大きなトラブルを経験したことについては、2021年度、今年度の定期点検で水熱の具体的な検査ですが、より手厚く、今までやっていなかったところもしっかり、処理期間が今年を入れてあと2年しかありませんので、そこに対して大きなトラブルが生じないように検査・点検のほうを手厚く計画して実施を行います。2021年度、残りのところまで健全に行くようなことで、特別に点検項目をこれから実施するところになります。

長期保全計画の御説明は以上になります。

○委員長 ただいまの御説明について御意見・御質問等がございましたらお願いします。いかがでございましょうか。

別紙1のところで今年の計画が出てきていますよね。この中で20年度に実施ができなかった分について、21年度に一緒にやりますよということなのですが、あまりコロナの状況が万全に変わってきているわけではないので、2021年度については、そこら辺の状況は十分踏まえた形で計画をつくっていると考えてよろしいですか。

●JESCO 2021年度、いろいろな経験を踏まえて、あと残すところに対しての対応で計画しております。

○委員長 いかがでしょうか。

多分昨年度起こったような事故が、だんだん後ろになっていけばいくほど、そういう事故が起こると怖いので、点検というのは事故をこれから起こしてはならないというぐらいの感じで十分に、過剰ではないと言ってもいいぐらいの点検をしていただく必要があると思っています。

掘り起こしの話も不確かさが残りますし、そういうものはできるだけ努力をしていった結果、どうしてもということはやむを得ないということがあるかと思いますが、そこら辺がおろそかになってしまうと困るので、この保全計画というの、これは事業部会のほうで審議をいただいて議論していただいた内容だろうと思いますけれども、環境安全委員会のほうとしては、そこら辺は念には念を入れて、十分精査して点検をしていただくということをお願いしておきたいと思います。

ほかの先生方、いかがでしょうか。

委員、どうぞ。

○委員 今、委員長からも御発言がありましたように、先ほど御説明ありました昨年度の蒸気漏えいのトラブルがあったということで、これまで御説明あったとおり、それに応じてこれまで点検の予定に入っていなかったところも点検に加えられているということで、もともと2021年度に予定されていたものに加えて、昨年度のトラブルを受けて点検作業が増えている部分もあるかなと思うのです。

ざっくり、平年度で予定していた点検の工数に比べて、昨年度のトラブルに対応したものを含めて、例年10やっていたとすると、2021年度というのは大体どのぐらいの数字になるのか、やはり10の中で優先度を置いてやらざるを得ないのか、あるいは点検の工数といいますか。そこにかける人数なり予算なりを増やして対応していただけるということなのか、いろいろ制約がおりの中なのでありますけれども、やはり再発などということはあってはならないわけでありますので、そういった点での力の入れ方というのは非常に難しい御判断になるかと思いますが、そのあたり、なかなか数字でお答えいただきにくいところもあるかなと思いますけれども、あえて厳し目の質問を投げさせていただきます。

○委員長 事務局のほうはいかがでしょう。

●JESCO ありがとうございます。

10月10日の蒸気漏れの影響を踏まえて点検範囲を増やすというのは、どれぐらいのボリュームかということ、相対的に数字もなかなか言いづらいのですが、資料1のほうでも言いましたが、100℃以上温度がかかってというところは必ずやろうとか、そういった取組で今5月、6月の定期点検に向けて、今メーカーとやり取りをしております。その中で、配管の長さにして50メートルぐらいのものを対象にできるか、できないかとか、今取り組んでいるところになります。割合ではうまく表現はできませんが、定性的にはここはやるといったところを星取り表で掲げておりますので、そこについてもれなくやりたいと取り組んでいるところになります。

○委員 大変難しいところだと思うのですが、同じトラブルを再発させてはまずいということで、当然そこに力を入れられると思うのですが、やはり限られた工数なりをそちらに割いてしまうことによって、それ以外の部分に手が回らないということで、そちらのほうで何かあると、これはこれでまた非常に困るわけです。

どうしても、やはり先ほど委員長がおっしゃったようなことに応えていくためには、ある種、やはり総量として増やさないことには追いつかない部分があろうかと思います。ただ、それいろいろな制約の中でということで大変難しいと思いますけれども、今回、昨年度トラブルがあったところについては、しっかり優先度をつけて点検をされていると伺っておりますし、そういう

意味では、それ以外のところについてもなかなか優先度のつけ方というのは大変難しいところだと思いますけれども、ぜひそのあたりをよく見極めながら進めていただければと思います。ありがとうございました。

●JESCO 従来の点検項目に影響しないように、しっかり今までやれていなかったところもプラスに対応したいと考えております。

○委員長 事務局も当然そこら辺のところを十分御承知の上だろうと思いますけれども、あえて念を押した形で申し上げて申し訳ないのですが、ぜひとも最終ゴールの直前でこけたりしないようにしたいという、そういう思いで発言させていただいていますので、ぜひよろしくお願いいたします。

全般についてでもよろしいですが、ほかはいかがでしょう。

委員、どうぞ。

○委員 前回、書面開催だったので、私は委員の意見として、地元として令和4年度末、つまり2020年度末の処理期限までに確実にこの処理が終わるということが、本区としては最大の関心事だということをお話しさせていただきました。

それに関連して、今日の資料の2の長期処理計画の最後のページなのですが、6番の東京事業エリア及び東京事業所におけるPCB分解処理、純PCB換算の今後の計画という中で、2022年度、つまり令和4年度で計画処理完了期限を迎えるが、超小型コンデンサー及び安定器の処理を依頼する北海道事業所の云々で、2033年までの計画的処理期限となっている表でも2023年度の欄を設けてあるのです。その前に、今後の計画を表18と19に示すとあるのだけれども、まず、この表18と19はどこにあるのですか。それと、どう見ても2023年度、北海道事業所で超小型コンデンサー、安定器の処理をお願いするとなっているのですけれども、2023年度予定している欄がどこにもないのですけれども、この点をお答えください。

○委員長 事務局、お答えください。

●JESCO 御質問ありがとうございます。

○委員 これは表8と表9の間違いですか。

●JESCO 御指摘いただいた部分は分かります。23年度に欄を設けているというところについて、私が適切に答えられませんでした。表の10であれば2022年度、令和4年度までしか東京事業所は処理を行いませんので、そこは。

○委員 それは分かっています。北海道で23年度にやる、その北海道の欄はどこにあるのですかと聞いているのと、表18と19はどこにあるのですかと聞いているのです。表8と9の間違いではないですかと聞いている。

●JESCO 申し訳ありません。表18、19は間違えております。表8と9というわけでもありません。まず、表18、19というのは文章が古いものが載せておりまして、全くの間違いになります。あと、北海道につきまして、極小コンデンサーにつきましては、プラズマのほうで安定器とともに処理します。そこについては、特にここでは表現をしておりませんので、これについても本文のほうの書き方がちょっと間違っておりました。

○委員長 17ページのところに表18、19があるけれども、その18、19は存在しないということですね。そこら辺のところを事務局で、多分これは事業部会での資料から抜粋をしているというか、

整理をしてつくられたもので、そちらの文章がそのまま残ってしまっているのではないかなと類推されるので、もう一回、事務局のほうで精査をしてください。そもそもこれに該当するのはここにあるのですかということです。あるいはあるのであれば、例えば表11、12にしてその後ろにつけた形、18ページに表11と12でつけ足した資料を再度つくって、説明をつけて委員の先生方にお送りください。今すぐ準備ができそうもないから。

●JESCO 今、6ポツのここの文章についての記載、または必要な表について、確認して不足のところについては追記させていただきます。

○委員長 委員、どうぞ。

○委員 今日、事故の話、それから、先ほど専門家の先生から掘り起こしの問題も提起されましたけれども、繰り返しますけれども、地元区としてはとにかく2022年度、令和4年までに確実にこの処理を終わらせるということで、我々はやはり住民代表として来ているわけですので、この記述は非常に大事なところだと思うのです。ですから、しっかりした資料を出してください。それと、北海道にお願いする分も含めて、こういう記述がある以上、よそにお願いする分がどのくらいあるのかというのもきちんと、それが令和5年までかかるわけでしょう。そういうものも含めてきちんと資料を出してください。よろしくお願いいたします。

委員長、以上です。

○委員長 事務局、よろしいですね。

●JESCO 分かりました。

○委員長 委員の言われたことは、私もその思いで先ほど申し上げました。環境省の委員会で掘り起こしで残ったのはどうするかという、今、環境省の委員会で議論しているところですが、そこについては東京事業所では延ばしてやるなどということを考えられないということをお願いしてきています。今のところ環境省の委員会でどう議論されるのかも分からないのですけれども、また、その委員会で出てくると思います。そこに私はオブザーバーみたいな形で出しますので、再度意思表示をするつもりではおりますけれども、正規の委員ではないので決定権はないという状況です。

そういう意味ではいろいろな状況が分からない、不確定な要素というのはどうしても残ります。不確定な要素があったらそれをどうするかということは現実問題として起こっている状況なので、これについては国のほうも議論します。国の委員会のほうで議論しますということを言っています。それから、そのときに各事業所にツケを回すようなことは絶対してくれるなど、どこでやるかどうかは国の責任で考えてくれと申し上げたのが、私が環境省の委員会で発言した趣旨なのですが、委員が言うように地元としては当然そのとおりだろうと私も理解をしていますし、環境安全委員会の委員長をやっている立場から、そういう主張をせざるを得ないだろうということでもあります。

よろしいでしょうか。では、その資料についてはしっかり直してください。

ほかにいかがでしょうか。もしよろしければ、議題の3もこれで終わりにさせていただいて、最後の議題は「その他」でございまして、事務局から何かあるでしょうか。

●事務局 特にございませんが、次回の第45回環境委員会につきましては、11月の開催を予定しております。委員長と御相談し、各委員の方々の日程を調整した上で、再度御連絡いたします。

事務局からは以上でございます。

○委員長　ありがとうございました。

それでは、ほかに先生方から御意見がなければ、本日の議題については以上でございますけれども、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これで本日の環境安全委員会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。